

---

## 平成 30 年度第 2 回

### 大阪人材確保推進会議 合同分科会

#### 議事要旨

---

(開催要領)

1. 開催日時：平成 30 年 9 月 11 日(火)

2. 場 所：エル・おおさか南館 4F 会議室 A

3. 出席者：

大阪府

(座長) 商工労働部雇用推進室長	道籬 佳久
都市整備部	
事業管理室事業企画課 課長補佐	稲山 喜与一
住宅まちづくり部	
建築振興課 課長補佐	上村 英司
教育庁	
教育振興室高等学校課 指導主事	北野 賢一
商工労働部	
中小企業支援室経営支援課 課長補佐	高岸 信之
中小企業支援室ものづくり支援課 主査	平 真一郎
雇用推進室労政課長	前田 真二
就業促進課長	柴田 昌幸
人材育成課 課長補佐	兼田 雅弘
総合労働事務所 課長	寺本 伸市
大阪府ものづくり振興協会 運営委員長	行貞 博之
(一社) 大阪バス協会 常務理事	阪部 光雄
(一社) 大阪府トラック協会 専務理事	滝口 敬介
(一社) 大阪建設業協会 課長	藤原 富幸
大阪住宅安全衛生協議会 会長	吉田 伸司
(一社) 大阪電業協会 事務局長	辰井 裕二
(一社) 大阪府建団連 事務局長	藤川 義治

大阪労働局

職業安定部職業安定課 課長補佐

花井 武司

近畿運輸局

自動車交通部貨物課 課長

平田 克也

近畿経済産業局

地域経済部地域経済課

平井 健司

近畿地方整備局

建政部建設産業第一課 課長補佐

川内 勝嘉

#### 4. 会議の内容

##### (1) 開会

##### (2) 意見交換

- ・就職希望者への効果的なPRについて
- ・若手人材の確保に向けた取組みについて
- ・高校に向けた取組みの進め方について

##### (3) その他

#### <議事要旨>

##### (1) 開会

大阪府 雇用推進室長

- ・3団体よりお示しいただいている事項を中心に、本事業がより良い方向に進んでいけるよう、皆様から積極的に意見等をいただきたいので、よろしく。

##### (2) 意見交換について

###### 【提案趣旨】

○就職希望者への効果的なPRについて（大阪府ものづくり振興協会）

- ・会員団体、傘下企業に対するセミナーや求職者向けの工場見学会を行っているが、より良いものにしたいと考えている。見学会の進め方など工夫や改善する点があれば、聞かせいただきたい。
- ・求職者にPRするためのコンテンツとして、会員向けのポータルサイトの活用を検討している。各業界の工夫や改善点などについても聞かせていただきたい。

○若手人材の確保に向けた取組みについて（大阪電業協会）

- ・会員企業からの強い要請もあり、入職促進事業に力を入れて取り組んでいるところ。
- ・取組んで、まだ2~3年のため、目に見える成果は現れていない。
- ・各団体にて実施している取組みや手法で、特に効果が高いものについて、ご教授頂きたい。

○高校に向けた取組みの進め方について（大阪府トラック協会）

- ・取組みを進める中で、高校生の業界に対するイメージを変えるとともに、生徒の就職に大きく関わる先生に対しても、危険ばかりではない、楽しい職場であること知ってもらうことが必要と実感している。
- ・高校への出前講座やインターンシップ、先生方との意見交換会等実施したいと考えている。取組みを進めるにあたり得た知識、生徒や教員が求めている情報や失敗事例などご教示いただきたい。
- ・就職先の候補として紹介いただけるよう、先生方のトラック業界に対する信頼を得るため、どんなに時間を要しても取組んでいく覚悟である。

【主な発言】

座長（大阪府雇用推進室長）：

- ・どういうタイプの方に向いているといったアピールが弱いのではないか。そこを発信していくことで、仕事に対するイメージが変わってくるのではないか。

大阪府ものづくり振興協会：

- ・「ものづくり」のイメージは良いが、「製造業」となると、“単純労働”、“つらい”などマイナスイメージとなっている。イメージUPの取組みとして、関西ダイカスト工業協同組合において、ダイカストについて知ってもらうためのパンフレットとDVDを作成し、工場見学の際に配布している。今後は、このような活動を広げたい。

大阪バス協会：

- ・業界としてこれから取り組んでいくところ。会員企業から求職セミナーに参加し、多くの参加者に来て頂くが、結果として就職には結びつかない状況であり、業界のイメージを変えてほしいと難しいお題を頂いている。
- ・まず、職業の中にバスドライバーもあるということを思い浮かべてほしいと考え、ポスターを作成。私鉄会社の協力を得て、電車の車内吊りに協力いただけることになった。バスの車内にも貼っていただき、バスの車内ではなく、電車の車内ということで広く目にとまり効果があると考え。
- ・加えて、チラシも作成。業界外に対して、配信し、バスドライバーに対するイメージを変えられたらと考える。
- ・これからの取組みとしては、協会のHPに求人活動されている企業を紹介するバーナーを作成する、新聞の紙面にも広告が出せないか現在、検討している。また、今年度内にバス協会主催による求人セミナー等が開催できればと検討もしている。

大阪府トラック協会：

- ・人材確保につながった企業の話を知ると、HP に工夫をしていること。特に 2～3 年後の自分がどうなるかイメージしやすいように 2，3 年先輩の方を紹介するのはいいとのこと。加えて、面接時に時間をかけて、会社の目標などしっかりと説明することが大事とのこと。
- ・HP がキーポイントと考え、協会として、企業向けに HP 関連セミナーを初級編と少し上の内容のものを実施していく方向で検討。
- ・情報発信は身近な人から行うのが効果的ではないか。特に生徒にも、先生にも身近である卒業生の方の話は響くのではないかと考える。また近いところに勤めたいと希望する傾向にあると聞くことから、学校への出前講座などは学校と同じ地域にある企業で実施していければと考えている。

大阪建設業協会：

- ・今年で、9 回目になるが高校生の夏休み体験セミナーを実施している。実施に伴い、6 月に大阪府内の高校 7 校の教諭、行政機関と意見交換会を実施している。その意見交換の場で、夏休み体験セミナー、現場見学会の生徒が参加しやすい日程等や、最近の高校生の就職活動状況等を聞いている。
- ・体験セミナーには複数の高校の生徒が参加するため、グループ分けの際は、他校の生徒と交流が出来るように工夫している。
- ・これまで実施した体験セミナー後のアンケート結果を見ると、体験学習に参加した生徒の 7 割程度が「建設業界に就職したい」と回答している。

大阪住宅安全衛生協議会：

- ・他の地域では、学校キャラバンという取り組みを行っており、小学校や中学校を訪問し、建設業の魅力を伝えるために女性現場監督などとの意見交換会を行っている。

大阪電業協会：

- ・各団体等からのご意見をお伺いし、色々なアプローチがあると思った。今後の参考にしたい。

大阪府建団連：

- ・毎年、建築・土木技能体験フェア「技フェスタ」を開催しており、今年で第 5 回目。11 月末に開催する。
- ・すぐに効果は出ないが、若い方や保護者向けに実施している。
- ・毎年、建団連でバスをチャーターし、府内の高校からも来てもらっている。

- ・今年の技フェスタでは、高校の生徒にモデルをしてもらい、ニッカポッカなどの「作業服のファッションショー」を開催する。
- ・その他、技フェスタでは、施工体験を通して、「つくるきっかけ・喜び」を何歳になっても思い出してもらえる魅力を伝える取組みをしている。
- ・高校生にも来てもらうため、高校の行事を勘案して、年度末に次年度のことを検討している。
- ・建設業界は離職率も課題。建団連では、離職防止のため新入社員研修を実施している。

#### 大阪労働局：

- ・大学生は、企業を選ぶ際、“残業が少ない”や“有給が取りやすい”といった点をよく見ている。厚生労働省では、残業時間、有給取得率や育休取得率など条件をクリアした企業を「ユースエール認定企業」として認定を行っている。大阪では15社程度が認定を受けている。必要があれば、説明に伺うので、よろしく。
- ・大阪労働局では、35歳未満を対象にした大阪わかものハローワークにおいて、グループで支援する「就活クラブ」を行っている。その中で、ものづくり企業体験バスツアーを実施している。
- ・高校生向けの取組みとしては、大阪東ハローワークにおいて、大阪市立中央高校のカリキュラムの一貫として、「福祉・建設・警備・運輸分野の業界説明」を1年生対象に実施した。今年度は2年生を対象に、来年度は3年生を対象に実施し、意識の変化などについて、検証したいと考えている。現在、1校での実施だが、増やしていければと考える。
- ・高校生の採用については、学校の先生が中心に進むため、ルールを守ることが大事である。

#### 近畿運輸局：

- ・トラック協会と連携して、学校への出前授業を開催。
- ・「トラック輸送における取引環境・労働時間改善大阪府地方協議会」での長時間労働抑制に対する取組みについて、団体にPRしていただくことで、若い人材にトラック産業界へ目を向けてもらえたらと考える。

#### 近畿経済産業局：

- ・平成30年5月に、人手不足対応アドバイザーをよろず支援拠点に配置し、中小企業の人手不足を積極的に解決するための支援を行っている。

#### 近畿地方整備局：

- ・高校生向けに現場見学を実施して効果が出ている事例を紹介する。
- ・ある土木の会社は高校に対して、卒業生が携わっている現場見学を実施している。

- ・現場の卒業生から話を聞くことにより、生徒は、自分自身のキャリアをイメージしやすくなる。
- ・その高校では、建築コースと土木コースがあり、入学当初は建築コースが人気だが、卒業生の携わる土木現場の見学会をすることによって、土木コースの方が人気になったとのこと。

#### 事業企画課：

- ・公共工事の受託事業者である企業でも技術者不足が深刻。
- ・本日、各団体さんからの意見を聞き、担い手確保の取組みの参考にしたい。

#### 建築振興課：

- ・大阪建設業協会さんと一緒に高校生向けの現場見学会を実施している。
- ・今年度は、1月くらいに府営住宅の建設工事現場を見学予定。
- ・また、若手技能者の知事表彰も実施しており、大阪建設業協会、大阪電業協会、大阪府建団連様よりご推薦いただいている。感謝。
- ・建設職人基本法が制定された。担い手確保の推進について業界団体と連携して取組んでいきたい。

#### 高等学校課：

- ・卒業生の活用は学校現場にとってもうれしいことである。1つの業界に特化した話よりは卒業生の社会に出てからの経験談などをメインとした話をさせていただく方が良いと考える。
- ・業界のイメージを変えるにあたり、生徒に直接関わるのは主に担任の教師。担任は、就職に関する情報は主に進路指導担当の教員から情報を得ることが多いので、進路指導担当の教員に直接、話をもっていただく方が良い。
- ・時間をかけて取組んで行っていただけるとのことだが、計画的にも取組んでいただけるとさらに良い。例えば、高校1，2年に対する取組みを来年度から始めたのであれば、今ぐらいの時期に学年主任や学年進路担当者等へ提案してほしい。

#### 経営支援課：

- ・将来の目標に向けて、現在取組んでいることや、社会に貢献している事項など伝えると結構、若者に響くと聞く。
- ・学生には大手事務職を希望する方が多いというが、例えば、社長との距離が非常に近いなど中小企業にしかない魅力や自分のキャリアアップがイメージできるように仕事しながら、身につけられる技術など具体的に説明すると良いと過去にアドバイスをいただいた。

ものづくり支援課：

- ・職場環境整備や生産性向上につながるセミナーを実施している。生産性向上は、喫緊の課題でもあり、人気がある。
- ・企業から学校へのアプローチについての意見があったが、先日、ある小学校から「ものづくり」企業の紹介依頼があった、先生側もものづくり企業との繋がりを模索しているのではないかと考える。

人材育成課：

- ・大学生を対象とした、製造、運輸、建設 3 業種のインターンシップを実施している。
- ・各業界団体様については、各会員企業へご案内をいただき、感謝。
- ・大学のキャリアセンターを回っていき、取組みを説明。平成 29 年度は、26 名の大学生が参加した。
- ・企業様には、自社の PR としてインターンシップを活用して欲しい。

就業促進課：

- ・8月の手に職発見プロジェクトでは、各業界の企業に来て頂きセミナーを実施。
- ・セミナー参加者の約7割が、実際に社長や企業の方の話を聞いて「イメージが上がった」と回答。
- ・今後も実施していこうと考えている。登壇企業のご紹介等、ご協力よろしく。